令和３年度　事務事業評価シート

事務事業名	生涯学習事業		事務事業コード	20617101	整理番号	141
（予算事業名）	生涯学習事業					
担当課名	いきがい学習課	担当係名	いきがい学習係	作成日	令和3年6月24日	

Ⅰ.事務事業の概要

1 総合計画上の位置づけ	まちづくりの柱	2　人を育て、人が輝くまちづくり
	基本方針	6　学校・保護者・地域の連携により魅力ある教育環境をつくります
	施策	１７　多様な生涯学習の推進
	取組項目	生涯学習の充実
2 事務事業の対象	☑ 不特定の市民　☐ 特定の市民　☐ 不特定の企業・団体　☐ 特定の企業・団体　☐ その他 具体的に（　　）	
3 事務事業の意図（ねらい）	公民館講座を通じて出会い、つながる機会を設けることで、地域の人間関係の復活を図るとともに、市民の主体的な活動による、文化振興を図る。時代や社会のニーズに応じたテーマや回数で講座を開催することで、世代や性別を問わず生涯学習の機会の拡大を目指す。	活動指標　指標名（単位）：講座延べ開催回数（回） 算出法：
4 事務事業の内容	子育て、男女共同参画、子ども対象、高齢者対象、地域支援者養成講座、保育ボランティア養成講座等テーマ別に生涯学習に関する講座を開催する。また生涯学習地域サポーター“まっcom”事業を展開し、地域人材の活用による地域文化の発展を目指す。	成果指標　指標名（単位）：講座延べ受講者数（人） 算出法：
5 これまでの改革・改善の取組経緯	子育て、男女共同参画、子ども対象、高齢者対象、地域支援者養成講座、保育ボランティア養成講座等テーマ別に生涯学習に関する講座を開催する。また生涯学習地域サポーター“まっcom”事業を展開し、地域人材の活用による地域文化の発展を目指す。	

Ⅱ.事務事業の業績（指標と投入資源の推移）

指標・投入資源				平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度（目標・予算）	対前年比 R02/R01
1 事務事業指標	有効性	活動指標		192	170	142	144	83.5%
		成果指標		2,582	2,360	1,511	1,541	64.0%
	効率性	コスト指標	コスト計/活動指標（円）	66,505	59,812	70,204	63,229	117.4%
2 投入資源	①投入人員（人）	正職員		0.82	0.55	0.62	0.27	112.7%
		再任用職員						
		非常勤等（アルバイト除く）		2.00	2.00	2.00	2.00	100.0%
	②支出内訳（千円）	人件費		10,687	8,275	8,596	6,570	103.9%
		事業費		2,082	1,893	1,373	2,535	72.5%
	③コスト計（=人件費＋事業費）（千円）			12,769	10,168	9,969	9,105	98.0%
	④事業費財源内訳（千円）	特定財源	国・府補助金					
			地方債					
			受益者負担等	328	308	431	660	139.9%
		一般財源		12,441	9,860	9,538	8,445	96.7%
	⑤その他考慮すべきコスト	将来発生するコスト（施設・設備・金利等）						

Ⅲ.事務事業の評価と改革・改善策

評価の視点	評　価	評価の判断理由の説明
1 必要性の評価 チェックシートへ移動	○ 1 事業を行う義務がある ◉ 2 事業の必要性が高い ○ 3 事業の必要性が低い	不特定多数の市民が利用できる（受益を受ける）行政サービスで対価の徴収ができない事業
2 有効性（顧客の視点）の評価	◉ 1 非常に有効 ○ 2 効果があった ○ 3 あまり効果がなかった	常に、時代ニーズに合わせたテーマの講座を企画している。講座展開の見直しや企画内容により、参加ニーズは高かったが、新型コロナウイルス感染防止対策として臨時休館となり、講座開催数とともに参加者が減少した。
3 効率性（コストの視点）の評価	◉ 1 向　上 ○ 2 横ばい ○ 3 低　下	比較的講師謝礼の低い“まっcom”登録者を講師とした講座を実施したことや、講座の見直しを実施したことにより、事業費の改善を行った。
4 今後の方向性（総合評価）	◉ A　計画どおりに事業を進めることが適当　○ B　事業の進め方の改善の検討 ○ C　事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討　○ D　事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	
5 評価結果に対する所見（事業の総括と課題に対する改革・改善策）	市民が学習や地域の課題解決をする場として公民館が活性化することは、自発的な市民協働につながる点で非常に大切である。地域のつながりを深める役割として講座を企画・実施することは今後も必要である。公民館の継続利用につなげるため、地域の人同士の交流の大切さ・楽しさを味わうことから人間関係を深め、市民同士の自発的な活動に発展させる講座の企画が必要である。新規の利用を増やすため、常に社会情勢や地域の課題を追える人材が必要である。さらに活発な生涯学習活動となるよう引き続き時代ニーズに合わせた企画に努めるが、現在講座企画を担当している会計年度職員の勤務可能残年数を踏まえると、委託等のアウトソーシングも検討課題である。	

令和３年度　事務事業評価シート

事務事業名	公民館管理事業	事務事業コード	20617102	整理番号	142
（予算事業名）	公民館管理事業				
担当課名	いきがい学習課	担当係名	いきがい学習係	作成日	令和3年6月20日

Ⅰ.事務事業の概要

1 総合計画上の位置づけ	まちづくりの柱	2　人を育て、人が輝くまちづくり			
	基本方針	6　学校・保護者・地域の連携により魅力ある教育環境をつくります			
	施策	１７　多様な生涯学習の推進			
	取組項目	生涯学習の充実			
2 事務事業の対象	☑ 不特定の市民　☑ 特定の市民　☐ 不特定の企業・団体　☐ 特定の企業・団体　☐ その他 具体的に（　　）				
3 事務事業の意図（ねらい）	様々な人々が集い、心の触れ合うネットワークづくりを進めるために、地域で自主的な学習活動を行うグループに活動の場を提供するなどの支援を行う。また、生涯学習の活動の場として公民館施設の充実を図る。	活動指標	指標名（単位）	開館日数（日）	
			算出法	公民館５館の平均開館日数	
4 事務事業の内容	各公民館施設の利用状況の管理や維持・修繕、設備の充実を図る。	成果指標	指標名（単位）	公民館延べ利用者数（人）	
			算出法		
5 これまでの改革・改善の取組経緯	施設の老朽化が激しく、施設や設備の更なる充実よりも、現状維持補修・整備が中心となった。				

Ⅱ.事務事業の業績（指標と投入資源の推移）

指標・投入資源				平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度（目標・予算）	対前年比 R02/R01
1 事務事業指標	有効性	活動指標		300	283	264	250	93.1%
		成果指標		60,165	54,947	22,143	22,000	40.3%
	効率性	コスト指標	コスト計/活動指標（円）	125,577	127,873	115,531	142,556	90.3%
2 投入資源	①投入人員（人）	正職員		0.48	0.45	0.51	0.46	113.3%
		再任用職員						
		非常勤等（アルバイト除く）						
	②支出内訳（千円）	人件費		3,344	2,803	3,179	2,922	113.4%
		事業費		34,329	33,385	27,275	32,717	81.7%
	③コスト計（=人件費＋事業費）（千円）			37,673	36,188	30,454	35,639	84.2%
	④事業費財源内訳（千円）	特定財源	国・府補助金					
			地方債					
			受益者負担等	434	338	252	390	74.6%
		一般財源		37,239	35,850	30,202	35,249	84.2%
	⑤その他考慮すべきコスト	将来発生するコスト（施設・設備・金利等）		各公民館の長寿命化・大規模改修等、老朽化対策にかかる費用 バリアフリー化に係る設備関係費用				

Ⅲ.事務事業の評価と改革・改善策

評価の視点	評　価	評価の判断理由の説明
1 必要性の評価 チェックシートへ移動	○ 1 事業を行う義務がある ◉ 2 事業の必要性が高い ○ 3 事業の必要性が低い	特定の市民や団体を対象としたサービスであって、サービスの提供を通じて第三者にも受益が及ぶ事業
2 有効性（顧客の視点）の評価	○ 1 非常に有効 ◉ 2 効果があった ○ 3 あまり効果がなかった	新型コロナウイルスの影響で、延べ利用者数が減少している。
3 効率性（コストの視点）の評価	○ 1 向　上 ◉ 2 横ばい ○ 3 低　下	新型コロナウイルスの影響で、令和２年度の開館日数の減少が原因で、前年対比に影響がでた。
4 今後の方向性（総合評価）	◉ A　計画どおりに事業を進めることが適当　○ B　事業の進め方の改善の検討 ○ C　事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討　○ D　事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	
5 評価結果に対する所見（事業の総括と課題に対する改革・改善策）	施設の老朽化が著しく、修繕等の現状維持の管理が中心となっており、施設の改修工事を計画的に実施する必要がある。	

令和３年度　事務事業評価シート

事務事業名	少年自然の家管理事業		事務事業コード	20617206	整理番号	144
（予算事業名）	少年自然の家管理事業				
担当課名	いきがい学習課	担当係名	いきがい学習	作成日	令和3年6月28日

Ⅰ.事務事業の概要

1 総合計画上の位置づけ	まちづくりの柱	2　人を育て、人が輝くまちづくり
	基本方針	6　学校・保護者・地域の連携により魅力ある教育環境をつくります
	施策	１７　多様な生涯学習の推進
	取組項目	社会教育の充実
2 事務事業の対象	☑ 不特定の市民　☐ 特定の市民　☐ 不特定の企業・団体　☐ 特定の企業・団体　☐ その他 具体的に（　　）	
3 事務事業の意図（ねらい）	みどり豊かな自然環境の下、野外活動や集団生活を通して、規律、友愛、奉仕、協力の尊さを学び、豊かな情操と社会性を養える施設として、青少年の健全育成に寄与すると共に、指定管理者による利用者の満足度向上に努め、リピーター並びに新規利用者の増加に努める。	活動指標　指標名（単位）：開館日数（日） 算出法：
4 事務事業の内容	利用者が安全で快適に利用できるように、施設及び設備の運営管理を実施している。また、施設利用を６か月前から予約受付し、市内外の学校園、中高大学校、青少年団体、民間団体及びファミリー層など幅広く利用されている。なお、平成２３年度からは指定管理者による指定管理を実施している。	成果指標　指標名（単位）：利用人数（人） 算出法：
5 これまでの改革・改善の取組経緯	指定管理者制度の導入により、民間企業のノウハウを活用し、利用者へのサービス向上、コスト削減及び地域の振興と活性化を図り、効果的且つ効率的に事業を展開してきた。また、施設特性をいかした青少年活動や野外活動の最適なプログラムを個々に提供し、利用者が再度利用したくなるような施設運営に努め、引き続き、利用ＰＲを積極的に進めている。また、市との連携事業を拡充し更なる利用者増を図るとともに、コスト削減と効率性を高めていく。	

Ⅱ.事務事業の業績（指標と投入資源の推移）

指標・投入資源			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度（目標・予算）	対前年比 R02/R01
1 事務事業指標	有効性	活動指標	308	308	6	308	1.9%
		成果指標	15,900	14,679	0	6,750	0.0%
	効率性	コスト指標　コスト計/活動指標（円）	139,172	159,916	7,658,833	153,029	4789.3%
2 投入資源	①投入人員（人）	正職員	0.43	0.38	0.41	0.25	107.9%
		再任用職員					
		非常勤等（アルバイト除く）					
	②支出内訳（千円）	人件費	2,996	2,367	2,556	1,588	108.0%
		事業費	39,869	46,887	43,397	45,545	92.6%
	③コスト計（=人件費＋事業費）（千円）		42,865	49,254	45,953	47,133	93.3%
	④事業費財源内訳（千円）	特定財源　国・府補助金					
		特定財源　地方債					
		特定財源　受益者負担等	538	453	453	453	100.0%
		一般財源	42,327	48,801	45,500	46,680	93.2%
	⑤その他考慮すべきコスト	将来発生するコスト（施設・設備・金利等）	第３期指定管理期間が、令和３年度にて終了。今後、第４期については、今後の施設の在り方を検討が必要であり、指定管理を継続するなら、施設の修繕及び改修が必要となる。				

Ⅲ.事務事業の評価と改革・改善策

評価の視点	評　価	評価の判断理由の説明
1 必要性の評価 チェックシートへ移動	○ 1 事業を行う義務がある ◉ 2 事業の必要性が高い ○ 3 事業の必要性が低い	不特定多数の市民が利用できる（受益を受ける）行政サービスで対価の徴収ができない事業
2 有効性（顧客の視点）の評価	○ 1 非常に有効 ○ 2 効果があった ◉ 3 あまり効果がなかった	新型コロナウイルス感染症拡大の予防により、４月８日を以って年度内休館となったため、施設の収益は皆無であった
3 効率性（コストの視点）の評価	○ 1 向　上 ○ 2 横ばい ◉ 3 低　下	新型コロナウイルス感染症拡大の予防により、４月８日を以って年度内休館となったため、指定管理料について協議した結果、一部返還された。
4 今後の方向性（総合評価）	○ A　計画どおりに事業を進めることが適当　○ B　事業の進め方の改善の検討 ○ C　事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討　◉ D　事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	
5 評価結果に対する所見（事業の総括と課題に対する改革・改善策）	新型コロナウイルス感染症拡大の予防により、昨年度の開館日数が６日間となった。市内学校園だけではなく、他市の学校園や一般企業の利用者に対して、指定管理者の関連施設と連携し、可能な限り少年自然の家の予約日程で他施設を確保した上で、休館の案内を実施した。民間の柔軟な対応のおかげで、利用者からの苦情はなく受け入れてもらえた。中には、令和３年度の予約希望の声もあった。 しかし、松原市民による施設利用者は横ばいであるため、松原市として管理運営を検討する必要がある。開館以来、料金体制の変更がなく、松原市の他施設と見比べても、料金体制が他市との差別化がされていない。今後管理運営を継続した場合、料金の見直しによる増収によって指定管理料を下げれたとしても、修繕及び改修に係る予算が増加する事は避けられない。	

令和３年度　事務事業評価シート

事務事業名	文化施設管理事業	事務事業コード	31028202	整理番号	145
（予算事業名）	文化施設運営管理事業				
担当課名	いきがい学習課	担当係名	いきがい学習係	作成日	令和3年6月30日

Ⅰ.事務事業の概要

1 総合計画上の位置づけ	まちづくりの柱	３　魅力を発信し、市民と共に進めるまちづくり
	基本方針	１０　多様な魅力をつくり、効果的に発信することで行ってみたい・住んでみたい・暮らし続けたい地域をつくります
	施策	２８　歴史・文化の保全・活用
	取組項目	文化芸術活動の促進
2 事務事業の対象	☑ 不特定の市民　☐ 特定の市民　☐ 不特定の企業・団体　☐ 特定の企業・団体　☐ その他 具体的に（　　）	
3 事務事業の意図（ねらい）	市民のニーズに対応した、誰もが利用しやすい文化施設として、日常的な施設の運営管理を行うと共に経年化に伴う施設機能の充実と安全管理に努める。	活動指標　指標名（単位）：施設の開館日数 算出法：
4 事務事業の内容	文化施設について（文化会館・ゆめニティプラザ・ふるさとぴあプラザ）指定管理者による運営管理を行う。	成果指標　指標名（単位）：施設の利用者数 算出法：
5 これまでの改革・改善の取組経緯	文化施設について（文化会館・ゆめニティプラザ・ふるさとぴあプラザ）平成18年から指定管理者による適切な運営管理を行っている。	

Ⅱ.事務事業の業績（指標と投入資源の推移）

指標・投入資源				平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度（目標・予算）	対前年比 R02/R01
1 事務事業指標	有効性	活動指標		956	966	837	850	86.6%
		成果指標		107,309	96,104	34,615	37,000	36.0%
	効率性	コスト指標	コスト計/活動指標（円）	121,324	119,742	140,618	138,376	117.4%
2 投入資源	①投入人員（人）	正職員		0.37	0.28	0.38	0.38	135.7%
		再任用職員			0.10	0.10	0.10	100.0%
		非常勤等（アルバイト除く）						
	②支出内訳（千円）	人件費		2,578	2,074	2,708	2,784	130.6%
		事業費		113,408	113,597	114,989	114,836	101.2%
	③コスト計（=人件費＋事業費）（千円）			115,986	115,671	117,697	117,620	101.8%
	④事業費財源内訳（千円）	特定財源	国・府補助金					
			地方債					
			受益者負担等					
		一般財源		115,986	115,671	117,697	117,620	101.8%
	⑤その他考慮すべきコスト	将来発生するコスト（施設・設備・金利等）		施設老朽化による改修費用及び空調など修繕費がかかる。				

Ⅲ.事務事業の評価と改革・改善策

評価の視点	評　価	評価の判断理由の説明
1 必要性の評価 チェックシートへ移動	◉ 1 事業を行う義務がある ○ 2 事業の必要性が高い ○ 3 事業の必要性が低い	特定又は不特定の市民が生活するうえで必要不可欠な事業
2 有効性（顧客の視点）の評価	○ 1 非常に有効 ◉ 2 効果があった ○ 3 あまり効果がなかった	令和2年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、休館や事業の中止が相次ぎ利用者数の減少が顕著に表れている。
3 効率性（コストの視点）の評価	○ 1 向　上 ○ 2 横ばい ◉ 3 低　下	施設の老朽化により、改修費用が増加傾向にある。
4 今後の方向性（総合評価）	○ A　計画どおりに事業を進めることが適当　◉ B　事業の進め方の改善の検討 ○ C　事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討　○ D　事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	
5 評価結果に対する所見（事業の総括と課題に対する改革・改善策）	新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者の減少がみられるが引続き、利用者が利用したくなる施設を目指し、行き届いた施設管理及びサービスの向上に努める。また、設備の保守点検や修繕を実施し、安全対策等施設の維持管理に努める。	

令和３年度　事務事業評価シート

事務事業名	文化振興事業	事務事業コード	31028203	整理番号	146
（予算事業名）	文化振興事業				
担当課名	いきがい学習課	担当係名	いきがい学習係	作成日	令和3年6月30日

Ⅰ.事務事業の概要

1 総合計画上の位置づけ	まちづくりの柱	３　魅力を発信し、市民と共に進めるまちづくり
	基本方針	１０　多様な魅力をつくり、効果的に発信することで行ってみたい・住んでみたい・暮らし続けたい地域をつくります
	施策	２８　歴史・文化の保全・活用
	取組項目	文化芸術活動の促進
2 事務事業の対象	☑ 不特定の市民　☐ 特定の市民　☐ 不特定の企業・団体　☐ 特定の企業・団体　☐ その他 具体的に（　　）	
3 事務事業の意図（ねらい）	一般財団法人松原市文化情報振興事業団をはじめ、市内の団体との連携により、市民が様々な文化活動を行い、柔軟かつ効率的な市民の文化振興を図る。	活動指標　指標名（単位）：委託事業数 算出法：
4 事務事業の内容	一般財団法人松原市文化情報振興事業団や、市内の団体との連携を図りながら、文化会館・ゆめニティプラザ・ふるさとぴあプラザの3施設において、文化芸術鑑賞の機会を提供し、また市民自身が主体的に参加する事業などの情報提供活動や文化芸術の発展を担う人材の育成を促すような事業を展開する。	成果指標　指標名（単位）：事業への参加人数 算出法：
5 これまでの改革・改善の取組経緯	指定管理者制度の導入により、民間の視点やノウハウを取り入れて事業内容の見直し、サービスの向上を図る。	

Ⅱ.事務事業の業績（指標と投入資源の推移）

指標・投入資源				平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度（目標・予算）	対前年比 R02/R01
1 事務事業指標	有効性	活動指標		9	6	5	6	83.3%
		成果指標		10,838	8,957	1,189	1,300	13.3%
	効率性	コスト指標	コスト計/活動指標（円）	667,444	877,167	841,200	947,167	95.9%
2 投入資源	①投入人員（人）	正職員		0.37	0.30	0.30	0.40	100.0%
		再任用職員			0.05	0.05	0.05	100.0%
		非常勤等（アルバイト除く）						
	②支出内訳（千円）	人件費		2,578	2,034	2,040	2,726	100.3%
		事業費		3,429	3,229	2,166	2,957	67.1%
	③コスト計（=人件費＋事業費）（千円）			6,007	5,263	4,206	5,683	79.9%
	④事業費財源内訳（千円）	特定財源	国・府補助金					
			地方債					
			受益者負担等					
		一般財源		6,007	5,263	4,206	5,683	79.9%
	⑤その他考慮すべきコスト	将来発生するコスト（施設・設備・金利等）		施設の老朽化による、改修費用及び空調などの修繕費。				

Ⅲ.事務事業の評価と改革・改善策

評価の視点	評　価	評価の判断理由の説明
1 必要性の評価 チェックシートへ移動	○ 1 事業を行う義務がある ◉ 2 事業の必要性が高い ○ 3 事業の必要性が低い	市民にとって必要性は高いが、民間だけでは市全体にとって望ましい質・量を負担することができず、それを補完・先導する事業
2 有効性（顧客の視点）の評価	○ 1 非常に有効 ◉ 2 効果があった ○ 3 あまり効果がなかった	他団体との交流などの他、郷土愛や歴史を学べる幅広い事業展開を行う予定であったが、事業の中止などで予定通り事業を展開することができなかった。
3 効率性（コストの視点）の評価	○ 1 向　上 ◉ 2 横ばい ○ 3 低　下	新型コロナウイルスの影響で、令和2年度の事業も計画通り実施することができなかった。
4 今後の方向性（総合評価）	◉ A　計画どおりに事業を進めることが適当　○ B　事業の進め方の改善の検討 ○ C　事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討　○ D　事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	
5 評価結果に対する所見（事業の総括と課題に対する改革・改善策）	事業のPRなどを工夫し、効率的な事業展開に今後も努める。	

令和３年度　事務事業評価シート

事務事業名	市民スポーツ事業		事務事業コード	31029101	整理番号	147
（予算事業名）	市民スポーツ自主事業				
担当課名	いきがい学習課	担当係名	いきがい学習係	作成日	令和3年6月30日

Ⅰ.事務事業の概要

1 総合計画上の位置づけ	まちづくりの柱	３　魅力を発信し、市民と共に進めるまちづくり
	基本方針	１０　多様な魅力をつくり、効果的に発信することで行ってみたい・住んでみたい・暮らし続けたい地域をつくります
	施策	２９　スポーツの振興
	取組項目	生涯スポーツへの支援
2 事務事業の対象	☑ 不特定の市民　☐ 特定の市民　☐ 不特定の企業・団体　☐ 特定の企業・団体　☐ その他 具体的に（　　）	
3 事務事業の意図（ねらい）	市民が各種事業を通じてスポーツを楽しめるよう企画や実技指導の充実を図る。	活動指標　指標名（単位）：開催数 算出法：指定管理者の自主事業、体育協会野外活動連盟、スポーツチャレンジの開催数
4 事務事業の内容	スポーツ教室、ウォーキング、スポーツチャレンジ等の開催	成果指標　指標名（単位）：参加者数 算出法：指定管理者の自主事業、体育協会野外活動連盟、スポーツチャレンジの参加者数
5 これまでの改革・改善の取組経緯	指定管理者に自主事業を継続、発展させる。また、スポーツチャレンジについては、毎年事業の内容を検討し、内容によって対象者の幅を広げるなど、事業の効率性を高めるための検討を行う。	

Ⅱ.事務事業の業績（指標と投入資源の推移）

指標・投入資源				平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度（目標・予算）	対前年比 R02/R01
1 事務事業指標	有効性	活動指標		98	139	123	121	88.5%
		成果指標		1,372	2,868	1,808	1,750	63.0%
	効率性	コスト指標	コスト計/活動指標（円）	198,347	126,396	115,463	156,198	91.4%
2 投入資源	①投入人員（人）	正職員		0.50	0.23	0.30	0.30	130.4%
		再任用職員			0.20	0.20	0.20	100.0%
		非常勤等（アルバイト除く）						
	②支出内訳（千円）	人件費		3,483	2,093	2,548	2,645	121.7%
		事業費		15,955	15,476	11,654	16,255	75.3%
	③コスト計（=人件費＋事業費）（千円）			19,438	17,569	14,202	18,900	80.8%
	④事業費財源内訳（千円）	特定財源	国・府補助金					
			地方債					
			受益者負担等					
		一般財源		19,438	17,569	14,202	18,900	80.8%
	⑤その他考慮すべきコスト	将来発生するコスト（施設・設備・金利等）		備品の経年劣化による買い替えや、市民のニーズに合わせた事業に伴う委託料の見直し等				

Ⅲ.事務事業の評価と改革・改善策

評価の視点	評　価	評価の判断理由の説明
1 必要性の評価 チェックシートへ移動	○ 1 事業を行う義務がある ◉ 2 事業の必要性が高い ○ 3 事業の必要性が低い	所信表明・施政方針・総合計画に施策として位置付けられている事業
2 有効性（顧客の視点）の評価	○ 1 非常に有効 ◉ 2 効果があった ○ 3 あまり効果がなかった	指定管理者のノウハウを活かしたスポーツ教室は運動能力を高め、市民のニーズに沿った事業展開を実施した。スポーツチャレンジは一流アスリートと交流できる唯一の場である。
3 効率性（コストの視点）の評価	○ 1 向　上 ◉ 2 横ばい ○ 3 低　下	教室を開催するに当たって、新たな器具、備品等を購入する必要がなく、現在の施設等で運営できるため、効率的である。
4 今後の方向性（総合評価）	◉ A　計画どおりに事業を進めることが適当　○ B　事業の進め方の改善の検討 ○ C　事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討　○ D　事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	
5 評価結果に対する所見（事業の総括と課題に対する改革・改善策）	各種事業を通じて、子どもからお年寄りまでスポーツに親しみ、気軽に参加できるように市民のニーズに応え、事業の内容または効率性を高めるように指定管理者とともに検討し実施する。	

令和３年度　事務事業評価シート

事務事業名	生涯スポーツ推進事業		事務事業コード	31029103	整理番号	149
（予算事業名）	スポーツ推進委員事業				
担当課名	いきがい学習課	担当係名	いきがい学習係	作成日	令和3年6月30日

Ⅰ.事務事業の概要

1 総合計画上の位置づけ	まちづくりの柱	３　魅力を発信し、市民と共に進めるまちづくり
	基本方針	１０　多様な魅力をつくり、効果的に発信することで行ってみたい・住んでみたい・暮らし続けたい地域をつくります
	施策	２９　スポーツの振興
	取組項目	生涯スポーツへの支援
2 事務事業の対象	☑ 不特定の市民　☐ 特定の市民　☐ 不特定の企業・団体　☐ 特定の企業・団体　☐ その他 具体的に（　　）	
3 事務事業の意図（ねらい）	市や地域等におけるスポーツに関する行事への協力や実技指導・助言、ニュースポーツ等の取組みにより、市民スポーツの推進を図る。	活動指標　指標名（単位）：市、地域、広域で実施する事業へのスポーツ推進委員の参加数 算出法：
4 事務事業の内容	スポーツ推進委員により、市や地域におけるスポーツ行事へ協力を行うとともに、ニュースポーツ等の普及に努める。	成果指標　指標名（単位）：参加人数 算出法：
5 これまでの改革・改善の取組経緯	実施回数の増加を図るために、スポーツ推進委員協議会に働きかけを行うことが必要である。	

Ⅱ.事務事業の業績（指標と投入資源の推移）

指標・投入資源				平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度（目標・予算）	対前年比 R02/R01
1 事務事業指標	有効性	活動指標		18	19	8	10	42.1%
		成果指標		873	684	435	450	63.6%
	効率性	コスト指標	コスト計/活動指標（円）	285,444	250,000	643,250	533,800	257.3%
2 投入資源	①投入人員（人）	正職員		0.40	0.36	0.47	0.37	130.6%
		再任用職員			0.05	0.05	0.05	100.0%
		非常勤等（アルバイト除く）						
	②支出内訳（千円）	人件費		2,787	2,407	3,099	2,535	128.7%
		事業費		2,351	2,343	2,047	2,803	87.4%
	③コスト計（=人件費＋事業費）（千円）			5,138	4,750	5,146	5,338	108.3%
	④事業費財源内訳（千円）	特定財源	国・府補助金					
			地方債					
			受益者負担等					
		一般財源		5,138	4,750	5,146	5,338	108.3%
	⑤その他考慮すべきコスト	将来発生するコスト（施設・設備・金利等）		参画事業の増加、並びに新事業実施に係る設備等経費				

Ⅲ.事務事業の評価と改革・改善策

評価の視点	評　価	評価の判断理由の説明
1 必要性の評価 チェックシートへ移動	◉ 1 事業を行う義務がある ○ 2 事業の必要性が高い ○ 3 事業の必要性が低い	法令に基づく義務的事業（賦課･徴収、検査･監督･指導）
2 有効性（顧客の視点）の評価	○ 1 非常に有効 ○ 2 効果があった ◉ 3 あまり効果がなかった	ニュースポーツは、年齢や障害にも関係なく取り組める、スポーツであり、その普及を図ることは、生涯スポーツ振興を広げる上で有効であるが、新型コロナウイルスの関係で事業の中止に伴い参加者数が減少した。
3 効率性（コストの視点）の評価	○ 1 向　上 ○ 2 横ばい ◉ 3 低　下	事業実施にあたって、新たに備品等を購入する必要はないため。
4 今後の方向性（総合評価）	○ A　計画どおりに事業を進めることが適当　◉ B　事業の進め方の改善の検討 ○ C　事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討　○ D　事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	
5 評価結果に対する所見（事業の総括と課題に対する改革・改善策）	生涯スポーツの振興を広げる上で、学校や他団体など協力関係を深めていく必要がある。 事業遂行のため、会議、研修会など積極的に参加する。	

令和３年度　事務事業評価シート

事務事業名	スポーツ施設管理事業	事務事業コード	31029104	整理番号	150
（予算事業名）	市民体育館管理事業、市民道夢館管理事業、市民プール管理事業				
担当課名	いきがい学習課	担当係名	いきがい学習係	作成日	令和3年6月30日

Ⅰ.事務事業の概要

1 総合計画上の位置づけ	まちづくりの柱	３　魅力を発信し、市民と共に進めるまちづくり
	基本方針	１０　多様な魅力をつくり、効果的に発信することで行ってみたい・住んでみたい・暮らし続けたい地域をつくります
	施策	２９　スポーツの振興
	取組項目	生涯スポーツへの支援
2 事務事業の対象	☑ 不特定の市民　☐ 特定の市民　☐ 不特定の企業・団体　☐ 特定の企業・団体　☐ その他 具体的に（　　）	
3 事務事業の意図（ねらい）	スポーツ施設を市民に提供することにより、スポーツ活動の場を保障する	活動指標　指標名（単位）：自主事業開催数 算出法：
4 事務事業の内容	指定管理者制度により、スポーツ施設の効率的な管理運営と市民サービスの向上を図る	成果指標　指標名（単位）：利用者数 算出法：
5 これまでの改革・改善の取組経緯	平成26年度から指定管理者制度を導入し、効率的な管理運営と市民サービスの向上に努めている	

Ⅱ.事務事業の業績（指標と投入資源の推移）

指標・投入資源				平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度（目標・予算）	対前年比 R02/R01
1 事務事業指標	有効性	活動指標		111	132	122	120	92.4%
		成果指標		348,406	313,304	186,739	185,000	59.6%
	効率性	コスト指標	コスト計/活動指標（円）	983,685	770,265	801,377	879,367	104.0%
2 投入資源	①投入人員（人）	正職員		1.29	0.55	0.72	0.62	130.9%
		再任用職員			0.35	0.35	0.30	100.0%
		非常勤等（アルバイト除く）						
	②支出内訳（千円）	人件費		8,987	4,581	5,674	5,047	123.9%
		事業費		100,202	97,094	92,094	100,477	94.9%
	③コスト計（=人件費＋事業費）（千円）			109,189	101,675	97,768	105,524	96.2%
	④事業費財源内訳（千円）	特定財源	国・府補助金					
			地方債					
			受益者負担等					
		一般財源		109,189	101,675	97,768	105,524	96.2%
	⑤その他考慮すべきコスト	将来発生するコスト（施設・設備・金利等）						

Ⅲ.事務事業の評価と改革・改善策

評価の視点	評　価	評価の判断理由の説明
1 必要性の評価 チェックシートへ移動	◉ 1 事業を行う義務がある ○ 2 事業の必要性が高い ○ 3 事業の必要性が低い	不特定多数の市民が利用できる（受益を受ける）行政サービスで対価の徴収ができない事業
2 有効性（顧客の視点）の評価	○ 1 非常に有効 ◉ 2 効果があった ○ 3 あまり効果がなかった	市民ニーズに合った自主事業の充実を図り、より一層のサービス向上に努め、利用者のさらなる増加につなげる
3 効率性（コストの視点）の評価	○ 1 向　上 ○ 2 横ばい ◉ 3 低　下	コロナウイルス感染拡大防止のため、休館や自主事業が中止となり、計画通りに事業が実施できなかった。
4 今後の方向性（総合評価）	○ A　計画どおりに事業を進めることが適当　◉ B　事業の進め方の改善の検討 ○ C　事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討　○ D　事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	
5 評価結果に対する所見（事業の総括と課題に対する改革・改善策）	コロナ禍であっても、指定管理者のノウハウを活かし、ニーズに合わせた事業の展開を行い、施設の行き届いた管理運営を行う事で、今後のスポーツ人口増加への対応に努める。	

令和３年度　事務事業評価シート

事務事業名	コミュニティセンター管理事業	事務事業コード	31131104	整理番号	151
（予算事業名）	コミュニティセンター管理事業				
担当課名	いきがい学習課	担当係名	いきがい学習係	作成日	令和3年6月28日

Ⅰ.事務事業の概要

1 総合計画上の位置づけ	まちづくりの柱	３　魅力を発信し、市民と共に進めるまちづくり
	基本方針	１１　市民参画を促し協働により地域のつながりをつくります
	施策	３１　地域コミュニティの活性化
	取組項目	地域コミュニティ活動の促進
2 事務事業の対象	☑ 不特定の市民　☐ 特定の市民　☐ 不特定の企業・団体　☐ 特定の企業・団体　☐ その他 具体的に（　　）	
3 事務事業の意図（ねらい）	行政と地域の連携の促進並びに市民の教養及び市の文化の向上を図り、安全で安心して暮らせるまちづくりを継続的に推進するための市民活動の場の充実を図る。	活動指標　指標名（単位）：開館日数（日） 算出法：
4 事務事業の内容	旧松原南図書館を、平成２８年９月より松原南コミュニティセンターとして開館した。市内のコミュニティセンターを２か所整備し、地域のコミュニティづくりを図り、地元に根ざした施設運営を行う。	成果指標　指標名（単位）：延利用者数（人） 算出法：
5 これまでの改革・改善の取組経緯	市内２か所の施設管理運営を行なった。城連寺では、阪神高速建設により地域の分断が余儀なくされ、地域コミュニティの中心として設立し、阪神高速道路大和川線城連寺地区対策協議会の事務局を設置した。松原南では、町会の集会所と松原南図書館として地域に根付いていたが、耐震が不十分であったため、コミュニティセンターとして新たな地域コミュニティの場として、またフリースペースを活用した。	

Ⅱ.事務事業の業績（指標と投入資源の推移）

指標・投入資源				平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度（目標・予算）	対前年比 R02/R01
1 事務事業指標	有効性	活動指標		308	283	270	308	95.4%
		成果指標		13,592	11,295	3,045	3,349	27.0%
	効率性	コスト指標	コスト計/活動指標（円）	42,419	45,855	47,593	41,899	103.8%
2 投入資源	①投入人員（人）	正職員		0.35	0.32	0.35	0.25	109.4%
		再任用職員						
		非常勤等（アルバイト除く）						
	②支出内訳（千円）	人件費		2,439	1,993	2,182	1,588	109.5%
		事業費		10,626	10,984	10,668	11,317	97.1%
	③コスト計（=人件費＋事業費）（千円）			13,065	12,977	12,850	12,905	99.0%
	④事業費財源内訳（千円）	特定財源	国・府補助金					
			地方債					
			受益者負担等	5,287	5,238	5,232	5,423	99.9%
		一般財源		7,778	7,739	7,618	7,482	98.4%
	⑤その他考慮すべきコスト	将来発生するコスト（施設・設備・金利等）						

Ⅲ.事務事業の評価と改革・改善策

評価の視点	評　価	評価の判断理由の説明
1 必要性の評価 チェックシートへ移動	○ 1 事業を行う義務がある ◉ 2 事業の必要性が高い ○ 3 事業の必要性が低い	不特定多数の市民が利用できる（受益を受ける）行政サービスで対価の徴収ができない事業
2 有効性（顧客の視点）の評価	○ 1 非常に有効 ○ 2 効果があった ◉ 3 あまり効果がなかった	一定の認知度を得ているが、令和２年度は新型コロナウィルス感染症拡大防止のため利用を広げられなかった。
3 効率性（コストの視点）の評価	○ 1 向　上 ○ 2 横ばい ◉ 3 低　下	新型コロナウィルスの影響で、開館日数が減り、利用者数も減少した。
4 今後の方向性（総合評価）	◉ A　計画どおりに事業を進めることが適当　○ B　事業の進め方の改善の検討 ○ C　事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討　○ D　事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	
5 評価結果に対する所見（事業の総括と課題に対する改革・改善策）	当施設２館とも設立背景は異なり、管理方法も異なっている。市民サービスからではなく地域のニーズによって設立し、城連寺では貸室として年々収益が増加している。松原南では、地域の方がフリースペースを利用される等いずれの館も地域に根付きだしている。	

令和３年度　事務事業評価シート

事務事業名	市民図書館管理運営事業	事務事業コード	20617203	整理番号	154
（予算事業名）	市民図書館管理運営事業				
担当課名	いきがい学習課	担当係名	いきがい学習係	作成日	令和3年6月28日

Ⅰ.事務事業の概要

1 総合計画上の位置づけ	まちづくりの柱	2　人を育て、人が輝くまちづくり
	基本方針	6　学校・保護者・地域の連携により魅力ある教育環境をつくります
	施策	１７　多様な生涯学習の推進
	取組項目	社会教育の充実
2 事務事業の対象	☑ 不特定の市民　☐ 特定の市民　☐ 不特定の企業・団体　☐ 特定の企業・団体　☐ その他 具体的に（　　）	
3 事務事業の意図（ねらい）	読書に親しむ拠点として、幅広く市民に利用されるように環境を整え、事業を展開する。市民のニーズに合った資料の充実やサービスを行う。	活動指標　指標名（単位）：利用率（%） 算出法：利用者数÷人口×１００
4 事務事業の内容	指定管理者制度を導入したことで、より幅広い資料の収集、提供を行う、また、市内の学校等と連携をして、新たな図書館サービスを進める。	成果指標　指標名（単位）：市民一人当たりの貸出資料数（点） 算出法：貸出資料数÷人口
5 これまでの改革・改善の取組経緯	松原市民図書館適正配置検討委員会の答申を踏まえ、分散型から集中型の図書館運営を目指し、令和2年1月に新松原図書館をオープンした。今後は、新松原図書館を中心に、市民ニーズに合致した図書館サービスを目指す。	

Ⅱ.事務事業の業績（指標と投入資源の推移）

指標・投入資源				平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度（目標・予算）	対前年比 R02/R01
1 事務事業指標	有効性	活動指標		9	10	10	16	105.3%
		成果指標		4	4	3	5	73.0%
	効率性	コスト指標	コスト計/活動指標（円）	17,891,705	40,060,211	29,723,100	19,023,875	74.2%
2 投入資源	①投入人員（人）	正職員		5.70	3.90	1.01	0.16	25.9%
		再任用職員		1.80	1.80	0.95	1.00	52.8%
		非常勤等（アルバイト除く）		8.25	7.25	7.00	7.00	96.6%
	②支出内訳（千円）	人件費		67,001	47,811	26,078	21,701	54.5%
		事業費		90,446	332,761	271,153	282,681	81.5%
	③コスト計（=人件費＋事業費）（千円）			157,447	380,572	297,231	304,382	78.1%
	④事業費財源内訳（千円）	特定財源	国・府補助金					
			地方債					
			受益者負担等	52	52	20	82	38.5%
		一般財源		157,395	380,520	297,211	304,300	78.1%
	⑤その他考慮すべきコスト	将来発生するコスト（施設・設備・金利等）		老朽化した分館４館の修繕費、新天美図書館の建設費等				

Ⅲ.事務事業の評価と改革・改善策

評価の視点	評　価	評価の判断理由の説明
1 必要性の評価 チェックシートへ移動	○ 1 事業を行う義務がある ◉ 2 事業の必要性が高い ○ 3 事業の必要性が低い	不特定多数の市民が利用できる（受益を受ける）行政サービスで対価の徴収ができない事業
2 有効性（顧客の視点）の評価	○ 1 非常に有効 ◉ 2 効果があった ○ 3 あまり効果がなかった	新型コロナウイルス感染症の影響で休館日が増え、貸出数は伸びなかったが、新松原図書館が開館したことで、利用者数は維持できた。
3 効率性（コストの視点）の評価	◉ 1 向　上 ○ 2 横ばい ○ 3 低　下	新松原図書館が指定管理者制度を導入したことで、人件費の削減ができた。
4 今後の方向性（総合評価）	◉ A　計画どおりに事業を進めることが適当　○ B　事業の進め方の改善の検討 ○ C　事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討　○ D　事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	
5 評価結果に対する所見（事業の総括と課題に対する改革・改善策）	新松原図書館が開館したことで、利用者数は維持できたが、新型コロナウイルス感染症の影響で休館が増え、貸出数は伸び悩んだ。今後は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえたサービス内容で、何度も利用したくなる図書館となるよう努力する。	